# 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付： 2020年 4月25 日

事業：ID2018484940

事業名：児童養護施設出身児童の自立支援及び

地域連携拠点づくり

団体名：特定非営利活動法人スマイルリング

　　　名： 堀田　豊稔 印

## 　　　　　　　　　　　　　　　TEL：080-1860-2496 事業完了日：2020年3月 31日

事業内容

1.児童養護施設出身のロールモデルによる講演・交流イベントの開催

　　（1）日時：2019年9月～2月　計10回

　　（2）場所：北海道、東京の児童養護施設

　　（3）内容：児童養護施設出身の元プロボクサー日本ライト級チャンピオン坂本博之氏による講演及び

　　　　　　　　ボクシングを通した交流活動、講演会、職業体験会、学園祭りへの参加

　　（4）参加人数：各約40～60名（施設児童、職員、ボランティアなど）

　　　　　　　　　　　職業体験会　100名（施設児童、地域住民、職員、ボランティア、参加企業など）

2.児童養護施設退所者に対する自立支援活動及び就職相談

　　（1）日時：通年

　　（2）場所：北海道帯広市内の団体保有のシェアハウス

　　（3）内容：児童養護施設退所者で未就労の児童に対する就職相談

　　（4）対象者：シェアハウスに滞在するもの　4名

.

事業評価

1. 事業目標の達成状況

【契約時の目標】

* 児童養護施設出身者の保護、養育、就労支援を実施する。
* 虐待や養育拒否等での不安を抱えた児童への個別相談を踏まえ就労へと導く。
* 相談者（児童）の居場所提供での居宅取得。
* 帯広・釧路道内及び全国の養護施設でのボクシングセッション交流会実施。
* 職業体験等の就労へ導く活動の実施。
* 各イベント企画への招待。

　　【目標の達成状況】

　　　　　シェアハウス事業では釧路市の施設退所児童が1名入所し、帯広の協力　企業への就職が決まり

働いている。そのほかの入居者も継続して就労しておりサポート体制が整いつつある。養護施設児童は家庭環境が様々で退所後に地元での就職や居住が難しいケースもあり、各地域の施設職員とも連絡を取り合い一人ひとりに合ったサポートを考えている。帯広以外の養護施設にも、当ＮＰＯにシェアハウスがあり、就労支援もしていることが周知され、相談を受けることも増えてきた。相談の中で一度就職しても、退職してしまう児童も多く、路頭に迷うケースが多数あり、そこで当ＮＰＯに相談が来る。シェアハウスへの入居が生活や就労の基礎になり、もう一度やりなおそうとしている児童ががんばれる環境を整えている。 実家のない子供たちの居場所、帰れる家になっていることが実感できている。3年間の私たちの事業計画において、短期間ではありましたが行動計画は100％に近い達成と思えます。生活拠点のスマイリングホーム（シェアハウス）の設置及び対象児童・対象者の保護ができ、更に就業自立へのアプローチも実績を確立できた。

就業体験及び養護施設とのタイアップした入所児童との地域交流活動等で、拠点地域の企業と公的機関との情報共有で知見を習得できました。当法人の名誉理事である坂本博之氏によるボクシングセッションを、北海道や全国の児童養護施設で実施できた。そして、施設出身者である女性への振袖支援も3名実施することができた。

それから、養護施設児童は、家庭環境からか、生活にかかるお金や税金などを知る機会があまりなく、卒園後の児童を見てきて「お金の使い方」がわからない、世の中のお金の仕組みを知らない児童が多いことを痛感し、「マネー講座」を開催した。

実施事業によって得られた成果

* 当ＮＰＯの活動を、養護施設、退所児童に認知がひろがった事
* 就労支援やシェアハウス事業などで、退所すぐの児童はもちろん、退所して時間がたち、どこにも相談できずに困っている退所者にも支援できるようになっていること
* ボクシングセッション交流会において、養護施設児童や職員と直接交流でき、現状などを直接話ができ、今必要な支援を感じ取るとこができたこと
* 一般の方も参加できる事業（職業体験会・講演会）を通じ、支援者・支援企業が増えたこと
* 振袖支援等で、本来であれば親、親族がするべき人生の節目、晴れ姿を援助でき、お祝いできた
1. 成功したこととその要因
* 助成金などで、シェアハウスの環境を整備できたこと
* 施設児童、退所児童、施設職員からの信用を得たこと
* 活動内容の発信（ＳＮＳ・ラジオ）、新聞取材などの広報活動
* 各方面の活動家から多くの支援をいただいたこと
* 活動内容が認知されてきたこと
* 個別の児童へ継続支援の関係性ができていること
* シェアハウス入所者や退所者の様子を見て、必要性を感じ、マネー講座を開けたこと
1. 失敗したこととその要因
* 児童の複雑な環境、心に対処できる高等な技術のある新たな支援者獲得ができなかった
* シェエハウスの保護監督者の通年常駐ができず、管理が大変だった
* コロナウイルス感染対策による、一番大きな講演会の中止により、そこで得るはずの寄付金が得られなかった

コロナウイルス感染防止対策の為中止した事業

* 1～3月予定　自立支援就労相談
* 3月23日大嶋啓介氏チャリティー公演会
* 成人式に参加できなかった養護施設退所児童の為の振袖支援（後撮り）

事業成果物：

各事業　ブログ内容報告　全17部

参照

団体ホームページ　<http://npo-smilering.jimdo.com/>

団体ブログ　http://ameblo.jp/npo-smilering

Facebook <http://m.fecebook.com/npo.smilering/>